

## 「日中植林・植樹国際連帯事業」中国トイレ革命交流団 参加者の感想（抜粋）

○日本が進めているトイレ革命と生活污水处理は全国的なもので、全体的に一体化して運用されている。都市と農村も一体化して進められ、なおかつ政策面でも優遇措置が数十年にわたって連続的に実施された結果、現在のように良好な状態にもってこることができたのである。同時に、市場の力を重視し、「浄化槽法」や、それと組み合わせた関連法規を制定し、政府の基準に適合する商品の開発を後押しすることで、企業の新たなものづくりへの意欲を大いに刺激し、絶えず新たな商品が生み出される。その結果、政府、家庭、企業がみな恩恵を受ける、という好循環を生み出している。しかしこうした措置は、国民の資質や健康に対する考え方が伴って初めて打ち出せるものであり、詰まるところ国民の生活水準が一定レベルに達し、より良い生活を求めるまでになっているかどうかによる。しかしながら中国は広く、地域が異なれば経済格差は大きく、生活習慣も千差万別で、画一的なモデルや決まりきった手続きや手順でトイレ革命を進めることはできない。重要なのは関連政策と基準を明確にすることだ。まず、何をすれば補助金がもらえるか、次にどこまでの基準に達すれば合格とみなすのかを明確にすべきだ。合わせてその状態を長く安定的に維持し、市場の力と農民の積極性を徐々に活性化し、一步一步前に進めていくことが重要である。

○1. (株)クボタとの交流では、日本の浄化槽の技術的な発展の歴史と、それが応用されている現状について理解を深めることができたばかりでなく、中国の「トイレ革命」に対してもある種の考え方を提示してくれた。経済発展に伴う生活水準の向上で、日本は単独浄化槽から合併式浄化槽への転換という過程を経てきた。しかし付替えコストが高いため、ユーザーはあまり積極的ではなかったという。中国で浄化槽技術が適している地域（下水管が普及しておらず整備するにはコストが高い、降雨量の比較的多い南の山間地域）であれば、すぐにでも合併式浄化層を直接的に応用できるだろう。(株)クボタには、ぜひ中国に研究所を設立し、中国の異なる地域に適した浄化槽の規格と技術開発をしていただくことを提案したい。

2. 中日文化経済交流協会との交流では、同協会が江蘇省無錫市鉄路橋村で展開している総合整備プロジェクトの現状を知ることができた。プロジェクトの具体的な内容については、これから見極めていかなければならない点もあるが、今後チャンスがあれば、一度現地を視察し理解を深める必要がある。しかしながらこのプロジェクトは、浄化槽技術で生活ごみやし尿処理を行うという総合的整備について、選択可能な事例を与えてくれた。

3. 日本トイレ研究所との交流では、同研究所が、トイレを改善することで、人々の環境保護と防災、子供の教育への意識を高めるために、学校、企業、民間団体からトイレに関する教育活動を展開することを提案し、広く人々（特に小・中学生）の環境保護や防災、思いやりの意識の向上に努めていることが分かった。

4. 大和ハウス工業(株)とTOTOテクニカルセンター東京の視察では、老人介護や快適なトイレや浴室の設備といった分野での進んだ技術と理念を理解することができた。中国は来たるべき超高齢化社会に対して積極的に応えていかねばならず、しっかりと技術的な備えをしなければならない。

5. 農林水産省との意見交換、合わせて和歌山県田辺市上芳養地区の農村集落排水設備の視察では、農村が居住密集地で実施している污水处理モデルが、浄化槽技術でそれを補うことにより農村地域の全てをカバーしている実態について理解することができた。しかしながら中国は広く気候も複雑なので、雨の少ない西北地域や寒さの厳しい東北地域では、どの技術を採用すべきかという問題について、今後の研究を待たねばならない。日本企業には深くこれを研究してもらい、より多くの方策を提示してほしい。

い。そうなれば、中国の乾燥地域や寒冷地域での問題が解決できるとともに、日本企業にとっても中国での市場開拓につながるであろう。例えばバイオトイレ技術はそうしたモデルの一つとなり得るのではないだろうか。